

## 平成21年度事業の経過

### 1：事業の経過

(玉野市指定重要文化財「八浜八幡宮棟札」の赤外線照射観察法による科学調査)

平成21年5月19日、玉野市教育委員会より依頼のあった『玉野市指定重要文化財「八浜八幡宮棟札」の赤外線照射観察法による科学調査』を吉備国際大学文化財総合研究センターにて実施した。

また、この調査は、文部科学省平成20年度事業 組織的な大学院教育改革推進プログラム（大学院 GP）「グローバルな文化財修復技能者の実践的養成」の一環として、文化財非破壊分析法特論の授業の中で実施した。

(實相寺寺宝「七面大明神像」の赤外線照射観察法による科学調査)

平成21年6月30日、日蓮宗法鏡山實相寺（福山市北吉津町）より依頼のあった『實相寺寺宝「七面大明神像」の赤外線照射観察法による科学調査』を吉備国際大学文化財総合研究センターにて実施した。

また、この調査は、文部科学省平成20年度事業 組織的な大学院教育改革推進プログラム（大学院 GP）「グローバルな文化財修復技能者の実践的養成」の一環として、文化財非破壊分析法特論の授業の中で実施した。

### 2：事業の概要

(玉野市指定重要文化財「八浜八幡宮棟札」の赤外線照射観察法による科学調査)

神社・仏閣などの新築、改築、修理等の際、工事名、工事年月日や神主名、僧侶名等関係者の名前を書いた棟札（とう・さつ）についての赤外線照射観察を行った。資料は、制作後500年以上経過しており、墨書の部分の肉眼で観察が困難になってきており、これ以上劣化かが進む前に現時点での状態を画像資料として保存する目的で実施した。

尚、本事業の詳細は、本号に報告として掲載されている。

(實相寺寺宝「七面大明神像」の赤外線照射観察法による科学調査)

広島県福山市にある日蓮宗法鏡山實相寺の寺宝である「七面大明神像」（1726年開眼）の裏書の文字が経年劣化のため、解読困難になって来ているため、現状を赤外線照射観察法により解読し、現状を画像資料として保存を行う目的で実施した。

尚、本事業の詳細は、本号に報告として掲載されている。